



「とにかく抱っこをせがまれて…大変！」なときは？

子どもが「抱っこ抱っこ!」とせがむのは、いくつぐらいまででしょうか。小学校の高学年や中学生になっても「抱っこ!」と言う子はいないですね。「抱っこ抱っこ!」とせがむのは、子ども時代のほんの一時期。あっという間に過ぎてしまいます。とはいっても、お父さん、お母さんは下の子のお世話もしながら、精神的にも体力的にも大変な時期です。子どもから「抱っこ抱っこ!」と言われる前に、親の方から子どもをぎゅっと抱きしめて、スキンシップをはかるのも良い方法だと思います。ただ、両手がふさがっていたり、とても疲れていたりと、どうしても抱っこできない時もあります。そんな時は、座って膝に乗せたり、手を繋いだり、頭を撫でたり、ほっぺに触れたり、おでことおでこをくっつけたりなど、できる範囲で体に触れて、スキンシップをはかりましょう。



赤ちゃん返りは否定せず、一時的なものと捉えて

子どもの赤ちゃん返りでは、どんな行動に対しても、「自分でできるでしょ」「もうお兄ちゃんでしょ」「そんなことばかり言わないで」など、相手を否定する言葉は禁物です。つつい言ってしまうこともあるかもしれませんが、そのあとのフォローが出来たら良いですね。

また、「赤ちゃん返り」は、一時的なものと捉えて、あまり深刻になりすぎないことが大切です。そして、お兄ちゃんお姉ちゃんになったとはいえ、「まだ生まれてから3年しか経っていないもんね…」などと思えば、意外と冷静になれたりするものです。

ご両親も、大変な時期かとは思いますが、急にお兄ちゃんお姉ちゃんになった子どもの気持ちにも寄り添って、対応してあげてくださいね。

